



歌志内市長
泉谷和美 いずみや かずみ

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。

市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年三月、我が国は東日本大震災という未曾有の自然災害を経験いたしました。さらに福島第一原子力発電所からの放射能漏れ事故も重なり、東北三県を中心とする多くの住民生活及び社会経済に計り知れない影響を及ぼすなど、日本国内が大きく混乱した一年でありました。

このように過去に経験のない自然災害の脅威を経験することで、非常時において自治体として講ずるべき対策の限界を感じさせられた一方、国中が助け合い、いたわり合う姿に地域を越えた結びつきの大切さを再

認識したところであり、自然災害への備えの重要性、地域住民が安心して暮らすことのできるまちづくりの実現に向け、決意を新たにしたいところであります。

ここに、震災で犠牲になられた多くの方たちに、改めて哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に對し、一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます。

なお、本市におきましては、市民の皆様のご支援、ご協力のもと、財政面では早期健全化団体からの脱却を果たし、財政基盤の確立に向けて取り組んでおりますが、地方交付税に大きく依存する財政構造に変わりはなく、さらには、このたびの震災の影響が地方にまで及ぶことが懸念されるなか、本年は、地域活力を再生するための最重要課題であります移住・定住対策として、道外居住者を呼び込むためのPR活動や、子育て世代の応援を目的とする福祉医療費助成制度の拡充、そして、現在進めている「地域福祉計画」の策定及び計画に掲げられる各種事業の推進など積極的に取り組んで参ります。

また、本年四月の砂川地区広域消防組合への加入を見送りました消防の広域化につきましては、本市の将

来を考えた場合、避けて通ることはできない重要課題と認識しており、引き続き協議を進めて参ります。

昨年は大震災により日本国中が深い悲しみに包まれ、さらには地デジ移行問題やT・P・P参加問題など不透明な社会経済情勢が続くなか、七月に開催されたサッカーの女子ワールドカップでは、日本代表の「なでしこジャパン」が初優勝し、さらにはチームとして国民栄誉賞を受賞するなど、多くの国民に勇気と感動を与えました。本市におきましても、これらの喜びを地域躍進の力に替え、現在置かれている厳しい状況に立ち向かわなければなりません。

本年も、市民の皆様とともに「協働のまちづくり」に取り組み、子どもから高齢者の方まですべての市民が、小さくとも住みよいと思えるまちづくりを目指し、誠心誠意取り組み決意でありますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして、健康で笑みが絶えない素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。





歌志内市議会議長

山崎数彦

歌志内のシンボルであるかもい岳の新雪が初春の陽光でまぶしく輝いています。

市議会から市民の皆様へ新年の門出を心からお慶び申し上げます。

昨年三月に発生した東日本大震災、原子力発電所の事故に起因する放射性物質による汚染等、日本は未曾有の国難に直面しました。秋の臨時国会で早期復旧・復興のための第三次補正予算は成立しましたが、被災地の状況は深刻であり、被災者の安全と安心、さらには人間としての尊厳の回復が最も重要となっています。

私たちも国民の一人として、「ガンバレ日本」の合い言葉を忘れることなく、一日でも早い復旧、復興を願うものであります。

また、名誉市民の河原敬前市長が

四月にご逝去され、多くの市民が悲報に接しました。後日、永年にわたる数多くのご功績が認められ旭日小綬章が授与されました。ここに、歌志内再生のご尽力を讃え謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本市の昨年の出来事としては、九年ぶりに企業誘致に成功したソラチ・クオーツ(株)の操業開始により新たな雇用の場が確保されました。また、東光地区には住宅分譲地が造成され、建設費助成による定住促進策が図られたところでもあります。さらには、永年の念願でもあった新消防庁舎が防災拠点として移転・改築されました。

教育的な関わりとしては、教育関係者が初の試みで主催した「幼小中・地域合同大運動会」には六百人が参加し、大成功に終わりました。また、「学芸交流会」も開催され、子どもや大人が一つになり地域間の交流・親睦を図ることができ、地域の活性化に大きな役割を果たしてくれました。

今年の新しい話題としては、三月にかもい岳スキー場で日本オリンピック委員会等の主催によるジュニアオリンピックカップ全国スキー競技会が開催されます。歌志内をアピ

ルする絶好の機会と期待しているところでもあります。

福祉面では、市が社会福祉法人光生舎へ譲渡した「親愛の家」の建て替えが完成間近となり、入所されている方の生活環境が大きく改善されるとともに、四月からは子育て支援として、中学生までの子ども医療費が近隣市に先駆け無料化されます。また、福祉のまちづくりの柱となる「地域福祉計画」も北星学園大学の絶大なるご支援と策定委員の熱心な議論のもと、毎月一回、委員会が開催され、今年中の計画策定が見込まれており、本市の方向性を示す重要な鍵となると考えております。

本市は数多くの課題を抱えています。市議会としては、八人の議員が力をつけ、議会が市民の意思決定機関として発揮していけるよう勉強会を重ねるとともに市民とのコミュニケーションの場を多く求め、議員一丸となってまちづくりに全力投球を行ってまいりますので、ご理解、ご支援をお願い申し上げます。

最後に、皆様にとって新しい年が素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

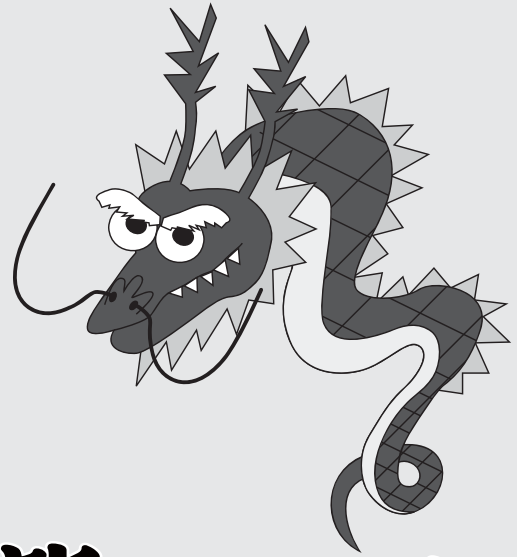
謹賀新年

市長・議長 年頭のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

今年も広報では、平成24年の干支「辰年」生まれの皆さんにご登場いただき、新年の抱負などをお伺いしました。

皆さん、今年も健康にはじゅうぶん気をつけてお過ごしください！



今年の干支 えど たつ 辰年生まれの皆さんです！

▶ 左から、
空くん、
澤田晴之くん、
熊谷康平くん
(平成12年生)、
平山



歌志内小学校からは、取材希望者の中からジャンケンで勝ち残った4人の男子児童にお話を聞かせてもらいました。

「将来やってみたいことは本の編集部！」と語ってくれた晴之くん。今年の抱負は、少し苦手な勉強を頑張りたいとのことで、「全国学力テストで高得点をねらいます！」と頼もしく話してくれました。

勝洋くんは、青空スポーツ少年団に入団していて「将来は、プロ野球の選手になりたい！」と語り、今後やってみたいことは「練習を頑張っていて、野球の試合でピッチャーをやりたい」と、とても元気に答えてくれました。

「修学旅行に早く行きたい！楽しみ！」と、今

から待ち遠しくしている空くんは、体育が得意で、特にフットベースボールが好きとのこと。算数が苦手らしく、「今年は算数を頑張りたい」と話してくれました。

康平くんも青空スポーツ少年団に入団していて、将来やりたいことは？の問いに「甲子園に出たいです！」と力強く話してくれました。「今年は、最高学年の6年生になるので、新1年生に歌小は良い学校だよということを伝えていきたいと思います」と、しっかりした抱負も話してくれました。

最後に、みんな声をそろえて「最終学年として、最後の小学校生活を楽しく過ごします！」と締めくくってくれました。

本町にお住まいの伊藤麻美さんには、小学生で同じく辰年の楓奈さんと親子でご登場いただきました。麻美さんは、「昨年は身内の健康面でいろいろなことがありたいへんな年でしたが、今年は家族全員病気などせずに過ごせたらいいですね。また、わたし自身も健康維持のため、家族が公認？黙認している月1回程度のお友だちとの飲み会は続けていきたい」とカ一杯抱負を語っていただきました。

楓奈さんは、「今年は小学校の最上級生になるので、下級生のお手本になるような6年生になって、小さい子が好きなので新1年生のお世話をしてあげたいです。それと、大好きなバレーボールをいっぱい練習して、早いサーブを打てるようになりたいです」と話してくれました。



▲伊藤麻美さん（昭和51年生）と、楓奈さん（平成12年生）



▲大河内信雄さん（昭和15年生）

昭和15年生まれを代表して、東光にお住まいの大河内さんが登場してくれました。

「もう6回目の年男。時間が過ぎるのは早いものですね」と大河内さん。体を動かすことがお好きで、同年代の友人の皆さんと冬は室内テニスや卓球、雪が解けるとパークゴルフなどのスポーツで毎週汗を流されているそうです。また、スポーツなどで体を動かしていることが健康を保っている秘訣であることも教えてくれました。

スポーツ以外で楽しみにしていることはなんですか？と伺ったところ「札幌に住んでいる4人の孫と会うことが一番の楽しみです」と目じりを下げて即答してくれ、本当にお孫さんがかわいくて仕方がない様子でした。

締めくくりに「これまでお世話になったこのまちで、何か少しでも役立つことができれば」と話してくれました。

養護老人ホーム「楽生園」から、加藤さんと益子さんにお話を伺いました。

「月1回のカラオケが楽しみ」という加藤さんは、小林幸子さんの曲が十八番だそうです。いろいろな行事にも積極的に参加され、園での生活をとても楽しく過ごされている様子でした。

時間があればお部屋で読書をされているという益子さんは、お子さんと手紙のやりとりをされていて「毎週届く手紙がとても楽しみです」とにこやかに教えてくれました。

今年はどんな年にしたいですか？の質問にお二人ともそろって「このまま病気をせずに健康で、楽しく暮らせることが一番です」と答えてくれました。



▲左から、加藤タマさん（昭和3年生）、益子ヨシさん（大正5年生）